

介護職に必要な病気の知識とケアのポイント

□胃がん

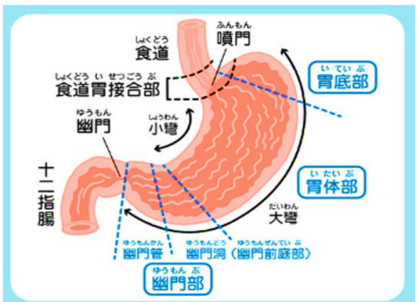
1. 胃ってどんな臓器？

◆胃の構造

- ・上腹部の左側に位置する
- ・胃の入り口…噴門、胃の出口…幽門、食道と胃の境目…食道胃接合部、胃の入り口に近い部分…胃底部、真ん中の部分…胃体部、幽門の手前部分…幽門部

◆胃のはたらき

- ・食べたものを溜めてすりつぶす
- ・すりつぶして粥状にした食べ物を十二指腸に送り出す
- ・胃酸を分泌し、殺菌作用、タンパク質の消化を助ける
- ・鉄やカルシウムなどミネラルの吸収を促進する
- ・ビタミンB12の吸収に必要な因子、食欲を増進させるグレリンを分泌する



2. 胃がんでどんな病気？

胃がんとは、胃の内側の上皮(粘膜)から発生した悪性腫瘍のこと。進行すると浸潤や転移を生じる。
※胃の内側の上皮以外から発生する腫瘍：カルチノイド、悪性リンパ腫、GIST などもある

◆胃がんのリスク要因

- ▶ヘリコバクター・ピロリの感染によって引き起こされる胃粘膜の炎症(萎縮性胃炎)
 - 胃炎が持続すると腸上皮化生(胃粘膜が腸粘膜と同じような機能をもつ細胞に置き換わる)が発生
 - 粘膜内の細胞ががん化することで胃がんが発生
- ▶塩分のとり過ぎ、喫煙
- ▶EB ウイルス(エプスタイン・バーウイルス)感染によって胃がんのリスクが増大する可能性(直接的ではない)
- ▶遺伝による影響



◆胃がんの深さの分類

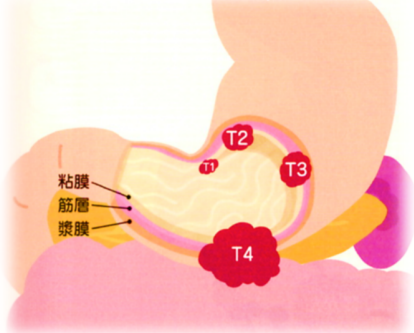
早期胃がん	進行胃がん		
T1	T2	T3	T4
粘膜(粘膜と粘膜下層)にとどまっているがん	粘膜下組織を越えるが固有筋層にとどまるがん	固有筋層を越えるが漿膜下組織にとどまるがん	胃の外側に出ている、あるいは他の内臓や組織に浸潤しているがん

◆胃がんの進行度(ステージ)

がんの深さ(T)、リンパ節転移の程度(N)、遠隔転移の有無(M)

遠隔転移		なし (M0)					あり (M1)
リンパ節転移の 個数	なし (N0)	1~2個 (N1)	3~6個 (N2)	7~15個 (N3a)	16個以上 (N3b)	有無に 関わらず	
深達度							
T1a/T1b	I A	I B	II A	II B	III B	Ⅳ	
T2	I B	II A	II B	III A	III B		
T3	II A	II B	III A	III B	III C		
T4a	II B	III A	III A	III B	III C		
T4b	III A	III B	III B	III C	III C		

＜胃がんの深さの分類＞



3. 胃がんの治療

- ▶内視鏡治療…原則としてリンパ節転移の可能性が極めて低い腫瘍に適応される
内視鏡的粘膜切除(EMR)、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)
- ▶手術療法…治癒切除術と非治癒切除術がある
治癒切除術：がんが全て取りきれ手術
①定型手術→主に進行胃がんに対し治癒を目的とし行われ、胃の2/3以上の切除とリンパ節郭清を行う

②非定型手術→(1)縮小手術:主に早期胃がんに対して行われ、定型手術に満たない手術

(2)拡大手術:胃だけでなく他の臓器も一緒に切除する

非治癒切除術:がんを全て取りきることができない手術

①緩和手術→治癒切除はできないが、症状の改善や食事ができるようになど、QOLの観点から胃空腸吻合術(バイパス手術)が行われる

▶薬物療法…①再発防止のための薬物療法:検査や目で見えない小さな転移に対し再発を抑えるために行う
※薬物療法を受けても再発する場合がある

②切除不能な進行がんや再発に対する薬物療法:進行に伴う症状の改善、進行を遅らせる、生存期間の延長

▶放射線療法…胃がんに対する放射線療法は、細胞の感受性が低いため基本的には行われない

※出血の制御、疼痛緩和(骨転移等)で行われることがある

▶緩和医療(支持療法)…がんと診断された時からの緩和医療

4. 治療中・治療後の生活における観察ポイント

◆胃を切ったあと(術後)の生活について

Q. 手術後はお腹に力を入れない方がよい?

A. 胃の手術は腹筋の筋膜を閉鎖しているため、術後にお腹に力を入れすぎる、いきむ、重い物を持つと圧がかかり脱腸になる可能性があります ※腹壁癒着ヘルニア(術後2カ月程度は注意が必要)

Q. ダンピング症状ってなに?

A. ダンピングとは「墜落」という意味があります。

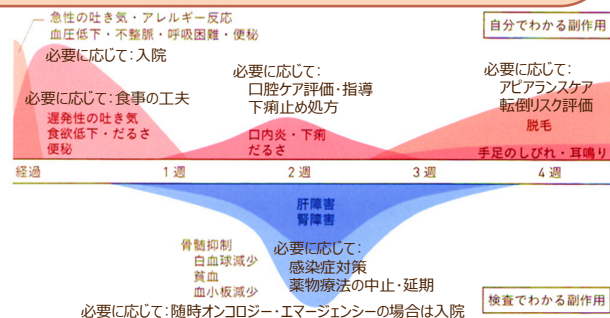
【早期ダンピング】食後30分ほどにおきる。(原因)摂取した食べ物が急速に小腸に流れることで生じる(症状)動悸、頻脈、顔のほてり、全身倦怠感など (予防)1回に食べる量を減らす、時間をかけて少しずつ食べる

【後期ダンピング】食後2、3時間ほどにおきる。(原因)摂取した炭水化物が急速に小腸に流れ込み、血中に吸収されると血糖値が急上昇し、血糖を下げるインスリンがたくさん分泌され、逆に低血糖になる(症状)脱力、倦怠感、めまい、意識低下、冷や汗、手の震えなど (予防)炭水化物を一度に過量摂取しない (対策)飴玉、甘いジュースなどで血糖値を上げる

◆がん薬物療法中の生活について

Q. どんな副作用が生じるの?

A. 自分でわかる副作用と血液検査でわかる副作用があります。



5. 社会資源について

◆がん相談支援センター

- 1) がん診療連携拠点病院などに設置
- 2) 研修を受けた看護師やソーシャルワーカーなどが相談員として対応
- 3) 無料・匿名可

がんに関する相談窓口で、がんが疑われる時、治療中などどんなタイミングでも利用可能。がんに関する情報を入手することも可能。→ぜひ、**がん相談支援センター**をご案内ください!



6. がん患者を看るうえで必要な「力」

★面談の中で表出された患者の思い、考え、価値観が今後の治療方針に関わる可能性がある

⇒**アドバンス・ケア・プランニング**の実践

★「私たちは、疾患を看るのではなく、人を看ている」「1人で患者・家族を看ているのではない」

各職種それぞれの強み(専門性)があり、目の前の患者にとって、どの職種がどのようにかかわることが最大限の効果を生み出すのかを考える ⇒**洞察力とつなげる力**